

13. 令和3年度 長野県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

信州大学医学部附属病院小児科・てんかん診療部門 福山哲広・北原理恵

1. 概要

令和2年10月1日から長野県てんかん診療拠点機関として活動をしている。理念は「てんかんに負けない地域を作る」である。現在てんかん専門医（小児科医）1名、脳神経外科医1名、小児科医1名、脳神経内科医1名、てんかん診療コーディネーター1名（看護師）で活動している。令和3年2月からてんかん外科治療を開始した。

2. てんかん診療実績

- ・週に2回のてんかん専門外来を行い、約90件/年の新患患者および約1200件/年の新患患者を受けている。長時間ビデオ脳波件数は年間60件に達している。
- ・てんかん症例検討会を月に1回行っている。検討症例は自院のみならず、長野県内の他医療機関からも受け付けている。参加者は小児科医、脳神経外科医、精神科医、脳神経内科医に加えて、放射線科医、遺伝科医、生理検査技師、心理士、言語療法士、作業療法士である。尚、前静岡てんかん・神経医療センター院長の井上有史先生にご参加いただき、症例検討におけるアドバイスおよびてんかんレクチャーを受けている。
- ・大阪市立大学脳神経外科の宇田武弘先生に指導をいただき、てんかん外科手術を行っている。令和3年度の当院でのてんかん外科手術症例は9件で、前頭葉切除術3件、選択的海馬扁桃切除術1件、硬膜下電極埋め込み術件、脳梁離断術3件、迷走神経刺激装置埋め込み術1件であった。

3. てんかん相談業務

- ・ホームページに電話番号および相談フォームを公開して、てんかんに関する相談を受け付けている。令和3年度の相談件数は19件で、当事者8件、患者家族7件、就労支援事業所2件、教育機関1件、医療機関3件であった。必要に応じて電話相談だけでなく、Webカンファレンスも開催した。

4. 啓蒙活動

- ・「特別支援学校でのてんかん」（長野養護学校）：令和3年5月11日（Web開催、参加者135人）、（小諸養護学校）令和3年8月24日（Web開催、参加者146人）
- ・「てんかん県民講座（市民公開講座）」：令和3年6月27日：（ハイブリット 会場56人、113端末）
- ・「てんかんの方の就労」（就労移行支援事業所対象）：令和3年8月31日（ハイブリット、参加者23人）
- ・「てんかん外科看護」（信州大学医学部附属病院スタッフ）：令和3年9月28日（ハイブリット、参加者29人、6端末）

5. 長野県てんかん治療医療連携協議会（てんかん医療提供体制検討会議）

令和4年2月14日に開催される予定であったが、COVID19感染拡大のため、書面開催と

なった。てんかん診療拠点機関の活動報告を行った。今後の課題として、てんかん専門医の増加（てんかん専門医養成支援事業）、地域における連携体制の構築、就労・生活支援体制の整備、てんかんに係る安全運転相談・行政処分の状況について話し合った。

● 構成員

氏名	区分	所属
福山哲広	医療	信州大学医学部小児医学教室
田澤浩一	医療	長野赤十字病院脳神経内科
荻原朋美	医療	北アルプス医療センターあづみ病院
金谷康平	医療	信州大学医学部脳神経外科教室
矢崎健彦	行政	長野県精神保健福祉センター 所長
永原正裕	当事者	日本てんかん協会長野県支部（上田養護学校教諭）
大久保千鶴	家族	親の会えんがわ代表
若林透	医療	長野県医師会総務理事

● 事務局

氏名	所属
北原理恵	信州大学医学部附属病院 てんかん支援コーディネーター
近藤大貴	健康福祉部医師・看護人材確保対策課 主任
亀井智泉	健康福祉部障がい者支援課・医ケア児等スーパーバイザー
宮澤一江	産業労働部労働雇用課 主事
金澤宏一郎	教育委員会事務局特別支援教育課 指導主事
村岡進一	警察本部東北信運転免許課 企画指導係長
西垣明子	健康福祉部保健・疾病対策課 課長
高橋正俊	健康福祉部保健・疾病対策課 課長補佐兼心の健康支援係長
伊藤溪亮	健康福祉部保健・疾病対策課 がん・疾病対策課
赤羽優介	健康福祉部保健・疾病対策課 心の健康支援係